

令和6年度

公益財団法人名古屋みなと振興財団
事業計画書

令和 6 年度事業計画書

公益財団法人名古屋みなと振興財団は、名古屋港における海事思想の高揚と海洋文化の普及に努め、併せて観光事業の振興を図り、名古屋港の発展に寄与することを目的として各種事業を実施する。

令和 6 年度は、本財団が名古屋港管理組合から名古屋港水族館の 4 期目（指定期間 10 年）の指定管理者として運営を行う 2 年目であり、名古屋港ポートビル、南極観測船ふじ及びガーデンふ頭臨港緑園の各施設については、5 期目（指定期間 5 年）の指定管理者として運営を行う 2 年目となり、施設の安心・安全、公平・公正な利用及び管理運営の効率化を推進していく。

また、国内での電子チケットの販売のみならず、インバウンド対策として国外においても電子チケットの販売を継続するとともに、利便性向上及び事務手続の簡素化のため、年間パスポートの電子化に取り組むなど、施設の魅力向上、来館者の満足度向上に取り組んでいく。

1 公益目的事業

(1) 海事思想及び海洋文化の普及に関する事業

① 指定管理施設（名古屋港水族館）を活用した海洋生物の展示等

海洋生物の展示を通して海洋文化にふれあう場を提供する。

展示にあたってはテーマに沿った計画を策定し、生物の健康と飼育環境の管理を適正に行い、生物の特性を引き出す展示を行うとともに、飼育担当者等による解説活動やモニター、ライブカメラを用いた動画での生態・行動等の解説を積極的に行い、来館者への海洋文化の普及を促す。

シャチに関しては、平成 29 年度からメインプールで「シャチの公開トレーニング」を実施しており、メインプールでの実施割合をより多くするために、シャチの健康維持に心掛けるとともにトレーナーのスキルアップを図る。

また、令和 2 年 5 月にオープンした南館 3 階の常設展示室「エコ・アクアリウム」では、海洋環境に関する啓発に努めていくとともに、愛知県、名古屋市等と連携を図りながら、SDGs（持続可能な開発目標）に関する理解の促進も行っていく。

特別展については、昨年度に本財団飼育職員が第 65 次南極地域観測隊として調査に参加したことから“南極地域観測隊に参加した活動報告や生物の収集・輸送”に焦点を当てた魅力ある展示を実施する。

加えて、令和 2 年度に開始した生き物たちの暮らしを応援していただくカプセルステーションを使った募金などの収入確保の取組も引き続き積極的に取り組んでいく。

② 体験プログラムを通じた海洋文化の普及

小中学生を対象とした水族館内でのスクール、広く一般を対象とした体験イベント、講演会など、主に水生生物に関する知識を深めるため、「君もドリトル先生になれるか!」、「もっと知りたいダーウィン教室」、「ナイトウォッチング」を実施する。また、令和4年度から開始した「水族館 de モーニング」等の体験プログラムは、運用方法の改善を図りながら実施する。

③ 指定管理施設（名古屋海洋博物館・南極観測船ふじ等）を活用した海事に関する展示等

これらの施設において、所蔵している海事に関する資料を展示公開することにより、海事思想にふれあう場を提供し、来館者への海事思想の普及を促す。名古屋海洋博物館においては、船やガントリークレーンの本格的な操縦体験を行えるシミュレーターなどの体験型の展示や、スマートフォンによるモバイル解説、オンライン動画配信サービスを活用することにより、学習効果の向上に努めていく。

今年度は名古屋港ポートビルが開館して40周年を迎えることから、名古屋海洋博物館において記念となる特別展を実施する。特別展は2部構成とし、第1部では開館当時の資料や写真、過去の特別展など開館以来の歩みを紹介し、第2部では常設展示の一部リニューアルを含め、名古屋港発祥の時代から現在に至るまでの本港の歴史を紹介する。併せて、名古屋港水族館の特別展と連携し、名古屋港ポートビル、名古屋海洋博物館、南極観測船ふじなど、ガーデンふ頭諸施設の回遊性創出イベントを実施する。

名古屋港ポートビル2階回廊ギャラリーにおいては、無料で利用できる市民ギャラリーとして、海に関する作品や、海に関わる人々の作品を中心に展示する。

また、SNS（フェイスブック、インスタグラム）を用い、展示物の紹介等を積極的に行うことにより、海事思想により興味を持っていただき、港そして海をより身近なものとして感じることができるよう、施設の認知度向上を図る。

④ 体験プログラムを通じた海事思想の普及

広く一般を対象とし、海事に関する知識を深めるため、「星空観察会」、「南極教室」、「工作教室（ペーパークラフト、3D立体カード製作）」、「ボトルシップの製作講座」等の体験プログラムを実施する。

⑤ 機関紙等による情報提供

名古屋港水族館機関紙「ニューズレターさかなかな」、生物情報誌「新着!海の生き物

レター」等をタイムリーに発行し、詳細に野生動物や水族館に関する情報を提供する。作成した製作物は、関係諸機関及び購読希望者に送付するとともに、館内配布により来館者に提供する。

また、小中学生向けの学習教材「かんさつノート」を発行・配布するとともに、ダウンロード版のワークシートも合わせた運用で幅広い活用を促していく。更に令和4年度に新たに発行した「環境ノート」は、中学生以上に向けた内容で、来館の事前事後の学習用として、中学校団体などに営業ツールとして配布するなど、引き続き幅広く活用していく。

⑥ 学生の職場訪問等の受入れ

中学生を対象とした職場訪問・職場体験、学芸員課程を履修している大学生を対象とした博物館実習などを受け入れ、名古屋港水族館及び名古屋海洋博物館等での体験プログラムや解説を実施し、また、学校団体等へのレクチャー、大学への非常勤講師の派遣を実施することにより、海洋文化及び海事思想の普及を図る。

本財団職員が執筆した名古屋港水族館のウミガメに関する教材が教科書「ひろがる言葉、小学国語4下」（教育出版）に掲載されていることから、教員の事前学習や児童へのレクチャーを積極的に誘致するとともに、オンラインによるレクチャーも要望に応じて実施していく。

加えて、来館の事前事後の学習用として、更には来館が困難な遠隔地の学校などに向けて、オンラインによるレクチャーの実施も充実させていく。

また、昨年度に名古屋市教育委員会が募集した「ナゴヤキャリアタイムサポーター」に登録し、名古屋市が進めるキャリア教育にも積極的に協力していく。

⑦ ボランティアの育成、活用

名古屋港水族館において、展示生物の解説、スクールなどの補助といった教育普及業務を行う解説ボランティア制度を導入している。この制度は、ボランティアへの研修、解説活動などを通して、自己啓発や自己実現という生涯教育の場を提供するとともに、習得した知識・解説スキルを用いて来館者へ興味・感動を呼び起こすことを目的としている。

解説活動は、南館「タッチタンク」、「ウミガメ回遊水槽」及び「ペンギン情報コーナー」、北館「進化の海」において、今年度も引き続き実施し、ボランティア及び来館者へ海洋文化の普及を促していく。

また、名古屋海洋博物館・南極観測船ふじにおいても、展示解説などの教育普及業務補助及び南極観測船ふじの塗装等の修繕を行うボランティア制度を実施し、ボランティア及び来館者へ海事思想の普及を促していく。

⑧ 海洋生物等の調査研究

海洋生物等の自家採集及び国内外の関係機関と連携して生物収集を行うほか、血統の登録管理や他園館との生物の交換又は貸借の調整を行うとともに、海洋生物等の飼育研究及び希少生物の飼育繁殖研究、フィールド調査、保護活動等の調査研究活動を実施する。

特に鯨類に関しては、令和2年度から3年間、三重大学大学院生物資源学研究科附属鯨類研究センターと共同で「シャチの繁殖と健康に関する研究」を実施した。繁殖による展示生物の安定的な確保及び健全な飼育は重要課題であり、様々な研究機関の協力を仰ぎながら、今年度も継続して技術開発を進める。

また、名古屋港内に冬季に来遊し、水産資源保護法で管理されている小型鯨類スナメリの生息数調査を大学や名古屋市内の専門学校と共同で取り組む。平成29年度まで実施した調査を元に、平成30年度後半から港内全域での本格的な調査を開始した。今年度も継続して調査を実施し、生物学的な基礎研究を進め、その研究成果の紹介に努める。調査費用に関しては外部の研究助成金に積極的に応募する。

米国スタンフォード大学、高知大学などと共同で令和4年から5か年計画で開始した、名古屋港水族館で育成したアカウミガメの北太平洋中部の東端における回遊経路調査（STRETCH（Sea Turtle Research Experiment of the Thermal Corridor Hypothesis））を今年度も継続して実施する。

(2) ガーデンふ頭における賑わいの機会と場を提供する事業

① 名古屋港観光施設協議会の運営事業

ガーデンふ頭地区を中心とした観光施設等からなる名古屋港観光施設協議会を通じて、相互の情報交換や連携を図り、名古屋港の観光客誘致に向けた観光推進PR、誘致営業・宣伝事業等を行う。

観光キャンペーンの一環である観光展「ゴーゴー名古屋港！」の実施、県内外の幼稚園始め学校関係者及び国内旅行やインバウンドを取り扱う旅行代理店等への訪問や聞き取り、誘致営業、PR事業などを行う。

② 情報誌の発行

名古屋港の観光施設の情報を掲載した「名古屋港水族館とガーデンふ頭の観光案内 すいぞくかん便り」を名古屋市内の小中学生とその保護者に発信し、名古屋港の観光情報を提供することにより来港者の増加を図る。

また、この他にも「名古屋港ガイドマップ GoGo 名古屋港」等を発行し、配布する。

③ 各種観光団体及び市内交通機関との連携を図る事業

県内の観光関連機関が主催するイベントや観光推進事業等に参加し、協働して観光振興とPRに努めるとともに、観光施設等関係者との連携及び情報の共有化を図る。

また、名古屋市交通局と連携し、市営交通機関利用者に対し、本財団の施設入場料の割引を行うことにより、公共交通機関の利用促進とともに来港者の増加を図る。加えて、名古屋を始めとする近隣地域のホテル・旅館に「名古屋港水族館パートナーシップホテル」として登録いただき、ガーデンふ頭諸施設の情報等を提供し、積極的な誘客に努める。

④ 指定管理施設（ガーデンふ頭臨港緑園・ジェティ）を活用したイベントの開催

ガーデンふ頭地区において各種イベントの実施、誘致を通じ、港に賑わいを創出し、親しまれる港づくりを推進する。

⑤ 指定管理施設（ガーデンふ頭臨港緑園・ジェティ）における賑わいの場の提供

ガーデンふ頭臨港緑園及びジェティの運営を通じ、多彩なイベントの開催を積極的に支援し、更なる賑わいの創出を図る。

また、ガーデンふ頭臨港緑園は日常的に地域住民の憩いの場として親しまれており、緑地維持業務、花壇整備等の施行により、緑豊かで快適な環境づくりの推進に努める。

2 公益目的事業以外の事業

管理運営する施設の利便性を向上させる事業

ミュージアムショップ、レストラン、売店及び自動販売機の運営や「名古屋港水族館の営業時間外利用」を促進するとともに「名古屋港水族館法人サポーター会員制度」により公益目的事業を補完する。